

平成30年第18回

# 荒川区教育委員会定例会

平成30年9月28日

於)特別会議室

荒川区教育委員会

平成30年荒川区教育委員会第18回定例会

- |        |   |   |
|--------|---|---|
| 1 日 時  | 平成30年9月28日  | 午後3時30分   |
| 2 場 所  | 特別会議室   |   |
| 3 出席委員 | 教 育 長<br>教育長職務代理者<br>委 員<br>委 員   | 高 梨 博 和<br>小 林 敦 子<br>高 野 照 夫<br>小 池 寛 治  |
| 4 欠席委員 | 委 員   | 坂 田 一 郎   |
| 5 出席職員 | 教 育 部 長<br>教育総務課長<br>教育施設課長<br>学 務 課 長<br>指 導 室 長<br>生涯学習課長<br>ゆいの森課長<br>地域図書館課長<br>書 記<br>書 記<br>書 記 | 阿 部 忠 資<br>山 形 実<br>平 野 興 一<br>小 堀 明 美<br>瀬 下 清<br>浦 田 寛 士<br>小 林 弘 幸<br>成 瀬 慶 亮<br>佐々木 希久子<br>小 川 綾 一<br>早 坂 利 春 |

( 1 ) 報告事項

ア 区議会定例会・9月会議について その2

イ 平成30年度全国学力・学習状況調査の調査結果について

( 2 ) その他

教育長 それでは、ただいまから荒川区教育委員会第18回定例会を開催いたします。

まず、初めに出席者数の御報告をいたします。本日、4名出席でございます。

議事録の署名委員につきましては、高野委員、小池委員、御兩名にお願いしたいと存じます。

5月25日開催の第10回定例会と6月8日開催の第11回定例会の議事録につきましては、前回の定例会で配付させていただき、この間、委員の先生方に御確認をしていただきました。本日、特に委員の皆様から御意見等がなければ、承認とさせていただきたいと存じますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 それでは、承認といたします。また、本日6月22日開催の第12回定例会の議事録を机上に配付させていただいてございます。次回の定例会で承認についてお諮りしたいと考えてございます。次回までに御確認いただきまして、お気づきの点等について、事務局まで御連絡をお願いいたします。

それでは、本日の議事日程に従いまして、議事を進めさせていただきます。本日は、報告事項2件となっております。

まず初めに「区議会定例会・9月会議について」ということで、その2という形になりますが、前回の委員会で9月会議の一般質問の答弁要旨の御報告をいたしましたけれども、追加の御報告をさせていただきたいと存じます。実は、今、もう決算特別委員会も既に始まってございまして、本日もゆいの森費、そして地域図書館費、さらには生涯学習費、スポーツ振興費等々幅広く御質問をいただいております。それでは、初めに一般質問の答弁について阿部部長から御説明をお願いいたします。

教育部長 それでは、「区議会定例会・9月会議について」ということで、前回の教育委員会におきまして、直接教育委員会でお答え、御答弁申し上げたものについての御紹介といえますか、御報告でありました。今回は地域文化スポーツ部の方で御答弁申し上げて、教育委員会にとりわけ関連するものについて御説明したいと思います。

お二人の議員の方から御質問いただいておりますが、お一人目が鳥飼秀夫議員、自民党でございます。ゆいの森あらかわのさらなる事業の充実ということで、御質問としましては、アニメ展やプラモ展等、子どもも大人も楽しめる企画展は、館を広くアピールする絶好の機会になっている。定期的を開催すべきと考えている。ゆいの森と荒川自然公園が連携し、利用者が相互を行き来したくなる取り組みが必要だと。そういった御質問でございます。

答弁といたしましては、ゆいの森あらかわでは、子どもから大人まであらゆる世代が楽しめるさまざまな事業やイベントを実施しており、開館以来、540にも及ぶ事業を実施し

ていると。

一段落跳びますけども、「わくわく感」や「ドキドキ感」といった楽しさをベースに、好奇心や探求心を育むさまざまな事業の実施は、荒川区の魅力を区内外にアピールする絶好の機会でもある。今後とも、交流都市や全国連携事業とも連動した魅力ある事業や企画展を積極的に実施していく。

また、荒川自然公園との連携については、相互に誘う案内板の設置、さらには近隣施設等も含めた共同事業の実施など、関係部署と十分に連携を図りながら回遊性を高め、より多くの皆様に愛される施設づくりに努めていくといった内容でございます。

お二人目が、町田高議員、自民党でございます。こちらにつきましては、区長が御答弁申し上げております。御質問といたしましては、オリンピック・パラリンピックを通じて、区民のレガシー・財産となるよう推進していくべきと。子どもたちが大会に触れる体験等を積極的に実施できないか。障がい者理解の促進を図るべきではないか。プレ・イヤーイベントの取り組みを展開する考えはないかと。

答弁といたしましては、1964年の東京大会では、新幹線や首都高速など、高度経済成長を牽引するレガシーを生み出した。今回の大会は「成熟した都市の姿」と、そこに暮らす「人々の心の豊かさ」をレガシーとして未来に残すことが大切であると。とりわけ次代を担う子どもたちに対してアスリートやボランティアなど、さまざまな形で大会に関わる可能性もあり、また、多感な時期の感動は一生の宝となることから、オリンピックやパラリンピックをお招きする授業などを今後も積極的に進めていく。

加えて、大会を契機に障がい者に対する理解を促進するため、3年前から障がい者スポーツフェスティバルを開催している。今後もパラリンピック競技だけではなく、デフリンピックやスペシャルオリンピックスも見据えて、障がい者スポーツ全体の普及に努めるとともに、障がい者スポーツ指導員などの人材育成についてもさらに進めると。

また、来年は、大会の1年前「プレ・イヤー」に当たるところから、教育・健康・福祉にとどまらず、文化・観光・街づくり等、区政のさまざまな分野で、地域や関係機関の御協力を得て取り組みを進めていく。今回の大会が区民の皆様の将来にわたる貴重な財産となるよう、区を挙げて取り組みを推進していくといった内容でございます。

御報告は以上でございます。

教育長 ただいまの説明につきまして、御意見、御質問をお願いしたいと存じます。

ちなみにきょうの決算特別委員会でもゆいの森あらかわのシステムのより一層の改善についてですとか、あるいはまたゆいの森と地域図書館との連携ですとか、図書館ホームページの開設とか。さらにはオリンピック・パラリンピックについては、都の補助金を活用した

スポーツ振興だけではなくて、文化振興、伝統文化の振興も含めて、より一層の事業の充実をという御意見が出てございました。

よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ声あり〕

教育長 それでは、続きまして「平成30年度全国学力・学習状況調査の調査結果について」報告をさせていただきます。

それでは、指導室長、お願いいたします。

指導室長 それでは、文部科学省が実施いたしました、平成30年度全国学力・学習状況調査の結果を御報告申し上げます。

実施日は4月17日でございます。対象は小学校6年生及び中学校3年生の全児童生徒でございます。実施教科は、小学校6年生、国語、算数、理科の3教科。中学校3年生、国語、数学、理科の3教科でございます。また、児童・生徒、学校に対する質問調査で学習状況調査を行っております。

問題の種類は、主として知識に関する問題のA問題と、主として活用に関する問題のB問題がございます。理科に関しましては、A問題のみとなっております。

調査の結果と概要は記載のとおりでございますが、小学校の平均正答率は、理科を除きまして全国平均を上回っております。中学校の平均正答率は、すべての教科において全国平均を下回っております。

今後の予定でございます。10月9日庁議。10月23日文教・子育て支援委員会にて御報告をさせていただく予定でございます。

説明は以上でございます。

教育長 若干、私からも補足をさせていただきます。教育委員の先生方に御支援いただきまして、この間、荒川区、小・中学校とも充実した予算をいただき、さまざまな学力向上の取り組みを行っております。その結果、もう安定的に、今回理科というのが小学校、中学校でも学力・学習状況調査の項目になりましたけど、国語や算数、数学については着実に成績が上がってきていまして、大体毎年全国平均を小学校は上回るようになってきました。今年度、算数については、東京都平均と基礎、応用とも平均点が同じというところで、そういった意味では地域性等もあるのですが、その中で荒川区の先生たちは頑張っているなということが結果として数字にあらわれております。中学校については、なかなか苦戦をしてございますけれども、従前かなり全国平均や都平均と比べて、離れていたとか、平均にほど遠かったというところは、少しずつでありますけれども、成績がアップしてきたという状況でございます。これも先生方の御支援によるところ、そしてまた繰り返すようですが、それを

受けて教職員が頑張っている結果ではないかと思っております。

長くなりました。補足で説明させていただきました。この件について御意見、御質問等ございましたらお願いいたします。小池先生、どうぞ。

小池委員 小学校の理科が全国平均よりも下回っていますが、これは誤差の範囲かなという感じもしますが、中学校の方は国語も数学も理科もいずれも全国平均を下回っている。これで今年の4月17日の段階で見ればそうですけど、今までのトレンドとしてはどうですか。だんだんマイナスであっても、近づいてきているという、そういう状況にありますか。

教育長 指導室長、説明をお願いいたします。

指導室長 荒川区の学校教育ビジョンの中にも記載をさせていただいています。これまでの経年変化の学力調査です。経年変化を見ますと、右肩で中学生もだんだん上がってきておるのですが、今回の中学校3年生につきましては、小学校6年生のとき、平成27年度に全国学力調査を行ったのですけれども、そのときにも国語の結果が下がっております。今回また中3のときに下がっているということで、やはり国語力の部分で経年変化から見てみても、この中3の子どもたちの国語力が学力の課題になっているところが、全体に響いているのではないかと分析の中で一つ読み取れます。全体は上がってきております。

教育長 そのほかいかがでしょうか。小林先生、どうぞ。

小林委員 まず1点目ですが、あまり点数にこだわる必要はないのかなと思うのですね。というのは、学力調査の結果は、家庭環境や地域との連動性があるかと思えます。それを勘案すると荒川区は非常に頑張っている自治体ではないでしょうか。したがって全国平均よりも、中学校の場合低いということがあるのかもしれませんが、それほど一喜一憂する必要はないのかなと思っております。これが1点目です。

2点目ですが、とは言いながらも、全国平均あるいは東京都の平均から比べると低いのは確かです。このあたりは指導室の方で分析をし、どういった対策が打てるのかに関して研究をしていただきたいと思えます。小・中学校の段階できちんとした学力を身につけることは、子どもたちの一生に影響を与えていきます。その点の分析についてよろしく願いいたします。

3点目ですが、国語は非常に重要で、国語ができないとそれ以外の成績にも影響すると思うのですね。その意味で読書活動であるとか、ゆいの森を中心とする読書活動、あるいは学校図書館を利用した読書活動を推進し、読解力を向上させることが極めて重要ではないでしょうか。この点、今後とも御指導のほどよろしく願いいたします。

教育長 瀬下室長、では、今の小林先生の御質問に関連して、一定、この調査結果、分析したり、その後の対応についてまだ決定ではないけど、考えているところはあるのですよね。

それをぜひこの場で御報告いただければと思います。

指導室長 まず小学校につきましては、先ほど教育長の方からもお話がありましたように、安定した状態が続いているということでございます。特に国語A、国語B問題についても全国平均とほぼ同じと。東京都の平均正答率と同じということでございます。中学校においては、すべての教科において全国に比べて下回ったと。中でも特に国語の問題Aが全国平均正答率に比べまして、大きく下回っておりまして、先ほど来お話のとおり国語力に大きな課題があるところでございます。特に、目的に応じて文章を読む際に情報を整理して内容を捉えることに課題があると。文の成文の順序や構成を考えて文章を書くということが苦手であると分析をしております。

それに関しまして今後、指導室として特に中学生に関してどんな手だてをしていくかというところで、まず、今、実施しておるのですが、「あらかわスマートスタディ」ですね。こちらの「東京ベーシックドリル」というものをタブレットを使って、今、ドリル型のコンテンツがございますが、こちらの個別学習の基礎的、基本的な事項に対して習熟させていきたいということで今、取り組んでいる最中でございます。

また、課題のある学校への指導主事の指導徹底ということで、月に2回程度指導主事が訪問いたしまして、特に数学科と国語科の授業を見まして、教員に対する個別指導を行っていくと考えてございます。

それ以外には、東京都の学力格差解消推進校。今、小学校2校あるのですが、さらに応募をしていきたいと。学力向上担当教員というのが1人加配されますので、そういった手だても組んでいきたいと思っております。

今年やったことなのではございますが、学力向上マニフェストをもう一度しっかり学校で学力調査の結果分析をして、その学力向上マニフェストの中で学力の課題を解決するための内容にするということで、より精選をした内容につくり上げました。これが今年度取り組んでいるものですので、何とか来年度の学力調査の中で結果として出していきたいと考えているものでございます。

それ以外にも通常やっている放課後の寺子屋も、例えばモデル校に民間の塾とか、そういうところに入ってもらって、少しやってみるということでできればとか、今、検討しているものが幾つかございます。

以上でございます。

教育長 高野先生、いかがでしょうか。

高野委員 一つ安心したことは、この学年がずっと持ち越しているということです。

教育長 でも、それはそれで課題があるのですよ。やはりいくら子どもたちの個別状況があ

るとはいつでも、6年生から中学3年生まで引きずってしまっているということは。

高野委員 基本的には、今、ゆいの森を初め、図書館がほぼ整備されましたね。それをうまく活用してもらって、そして勉強してもらおう。要するにもう場ができたので、うまく指導する方法を考えたらいいと思うのです。しかし、中学校がすべてにおいて全国より下回ってしまうと目立ってしまいます。どうすればいいのですかね。

中学生というのは、一番大切な時期ですから、本当に勉強してもらいたいと思います。この学年が一過性の現象であって、来年はもっといい成績が得られるかもしれませんが、子どもたちのせいにははいけませんね。僕たちがその環境をもっと整えてあげなくてはならないと思います。今度はソフトの環境をいかにつくるかでしょうね。

中学生は受験がありますし、集中的に教育しなければならないと思いますから、ある程度は生徒たちに強いなければいけないのかなと思います。少し長い目を見て、受験対策、学力対策を集中的にやる以外ないのではないかと思うのです。しかし、寺子屋をやったり、図書館を充実して、いろいろな手を差し伸べているのですから、あとは反応を待つだけです。

この前、連合体育大会のときに指導室長に「荒川区の生徒たちは、どのような高校に入るのですか」と聞きましたら、それぞれ立派な高等学校に入る生徒がいるのですよね。レベルの高い学校に入るというある程度の方向性というのかな、目標をつくらせる。そしてまた個々の生徒の資質を見極め、その子にあった進路を選べるよう指導するのも、一つの荒川区としての特色になると思う。そうすれば全体にレベルがアップしてくれるのかなと。そういう個人個人の教育というか、方針を相談してあげるシステムをつくるのが大切だと思います。

小林委員 そうですね。やはり個々の学生さんの状況というのは違いますし、進路等も違うと思いますので、きめ細かい指導というか、それが大切になってくるのかなと思っております。

高野委員 目標をつくらせる、つくるのを手伝えることが大切ですね。

小林委員 先生がおっしゃるようなキャリア教育が、非常に重要になってくるかと思います。

高野委員 頑張りましょう。

教育長 ただいま高野委員からいただいた御助言、一人一人の児童・生徒の状況に応じて、きめ細かな指導を行っていくべき。そしてまた子どもたち自身が目標をきちんと見据えて中学校を卒業できるような、そういった教育をしていくということについては、改めて各学校、各教員に徹底していきたいと思っております。

高野委員 そうですね。ぜひ頑張りましょう。

教育長 予定しておりました事項は以上でございますけれども、事務局から何か連絡事項は

ありますでしょうか。

教育総務課長 教育委員会の日程を御覧いただければと思います。次回の10月12日の金曜日。前回、小学校を御視察いただきましたけど、次回につきましては、中学校を御視察いただいて、その後、教育委員会を開催したいと思っております。

町屋でございます第五中学校に1時20分に1階の開放室というところに御集合いただきまして、1時半から5時間目が始まりますので、それを御視察いただきます。その視察終了後に校長と意見交換をして、その後定例会に入りたいと思います。場所がここではございませんので、御注意していただければと思います。

私からは以上です。

教育長 以上をもちまして、教育委員会第18回定例会を閉会といたします。

了